

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 海外陶芸美術館との交流事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

現代陶芸美術館 総務部 管理調整係 電話番号：0572-28-3100 (内 103)

E-mail：c21802@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 22,800 千円 (前年度予算額：22,800 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	22,800	11,090	0	871	0	0	0	0	10,839
要求額	22,800	11,322	0	0	0	0	2,208	0	9,270
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・平成17年に台湾の新北(しんぺい)市立鶯歌陶磁(いんがとうじ)博物館(当時は台北縣立)と「文化交流に関する覚書」を締結したが、岐阜県側の予算の都合で交流事業が途絶えていた。令和3年度の国際陶磁器フェスティバル(新型コロナウイルス感染症の影響により開催を延期)を踏まえて、交流の再開と交換展開催を目指している。
- ・R1年度には当館学芸員が新北市立鶯歌陶磁博物館の予算で渡航し、現地で調査研究を実施した。
- ・当地域の陶芸文化及び陶磁器産業についての調査のため、新北市立鶯歌陶磁博物館の学芸員を招へいする。将来、この調査をもとに台湾において当館のコレクション展を開催することで、台湾での岐阜県現代陶芸美術館の認知度を高め、さらには岐阜県の陶磁器産業や文化を知らしめて、台湾からのインバウンドの増加に資する。
- ・本事業は R2 年年度に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症のため R3 年度に延期された。

(2) 事業内容

- ① 「台湾現代陶芸の力 新北市立鶯歌陶磁博物館コレクションによる」展（仮称）の開催

【会期】令和3年9月11日(土)～10月31日(日) (48日間)

※当館が位置するセラミックパークMINOにおいて開催される世界4大陶磁器コンペティションの一つ「国際陶磁器フェスティバル美濃」と同時期に開催。入館共通券の販売等において連携をはかるため、本展は実行委員会方式で開催する。

- ② 新北市立鶯歌陶磁博物館学芸員の招へいによる当館コレクションや美濃陶芸・陶磁器産業の調査研究

当館コレクションや美濃陶芸及び陶磁器産業の調査研究を行ってもらう。将来、この研究成果をもとに台湾において当館のコレクションないし当地域の陶芸を紹介する展覧会を開催することで、台湾での当館及び県、そして県の陶磁器産業や文化の認知度を高めること、さらには台湾からこの地域へのインバウンド増加やブランディング強化に寄与することを目指す。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

「アジア陶磁デルタプロジェクト じゃんけんぼんの考えかた 一勝ち負けのない共存展」

平成19年度に多治見（岐阜県）、利川（韓国）、鶯歌（台湾）の東アジア3地域（陶磁器産地）による国際相互交流展（巡回展 韓国→台湾→当館）を開催した。

予算 22,995千円、入館者数 2,707人、日数 62日、作品数 150点

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	155	鶯歌陶磁博物館学芸員調査（招へい）同行
消耗品費	66	
役務費	29	
委託料	550	鶯歌陶磁博物館学芸員招へい 渡航・国内旅行手配業務
負担金	22,000	企画展実行委員会出資金
合計	22,800	

決定額の考え方

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

（1）「台湾現代陶芸の力」展（仮称）の開催

- ・当館と「文化交流に関する覚書」を締結した台湾の新北市立鶯歌陶瓷博物館は、台湾有数の陶磁器産地である鶯歌区で、2000年に開館した陶磁専門の美術館である。また著名な国際的コンペである台湾国際陶磁ビエンナーレを開催していることでも知られている。
- ・展覧会では台湾の陶磁文化を伝える茶器等の作品から、台湾の現代陶芸シーンを伝える気鋭の作品まで、鶯歌陶瓷博物館の所蔵品を通じて台湾陶芸とその文化を紹介する。
- ・世界の現代陶芸のネットワーク構築を目指す当館が、同館との交流展示をすることは、当県の陶磁器文化を世界の動向のなかで県民が認知する機会となり、陶芸文化への理解を促すことが期待できる。
- ・会期 令和3年9月11日（土）～10月31日（日）：48日間
- ・内容 台湾の陶磁文化を伝える茶器等の実用作品から、台湾の現代陶芸シーンを伝える気鋭の作品まで、鶯歌陶瓷博物館の所蔵品を通じて台湾現代陶芸とその文化等を紹介。
- ・作品数 120点程度
- ・関連催事 鶯歌陶瓷博物館員等による講演会、シンポジウム、ワークショップ等

（2）当地域調査を目的とした新北市立鶯歌陶瓷博物館学芸員の招へい

- ・R1年度には当館学芸員が新北市立鶯歌陶瓷博物館の予算で渡航、現地で調査研究を実施し、この調査をもとに展覧会を企画している。
- ・同様に、新北市立鶯歌陶瓷博物館学芸員を岐阜へ招へいし、展覧会の開催を視野に学術的・専門的観点から当館コレクション及び当地域の陶芸・陶磁器産業に関する調査を行う。
- ・鶯歌陶瓷博物館は、台湾随一の陶芸専門博物館であり、同国内における陶磁文化発信の中心である。また、国際ビエンナーレの開催などからも分かるように、その発信力は国際的に認められているものである。同館において当館及び岐阜県の陶磁器文化・産業が紹介されることに

より、台湾のみならず全世界的に、当県文化の知名度の向上やそれに伴う地域振興・観光誘客が期待できる。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目 標	達成率
入場者数	(H)		2,707 (H19)		14,280 (R3)	100%

※当館での類似企画展事例「アジア陶磁デルタプロジェクト じゃんけんぽんの考え方ー勝ち負けのない共存展」(H19年度)と比較した。

開催日数 56 日間 平均 48.4 人

○指標を設定することができない場合の理由

--

(前年度の取組)

- ・ 事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 - ・ 新型コロナウイルス感染症の流行を受け、令和 2 年度の具体的事業は中止とした。
 - ・ 展覧会の実施に向けた調査及び調整を行った。

(前年度の成果)

- ・ 前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 - ・ 新型コロナウイルス感染症の流行を受け、令和 2 年度の事業は中止とした。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い	
(評価)	○ 当館が組織目標として標榜する「県民の陶芸美術に関する知識・教養の向上及び県陶磁器産業の発展のため事業を推進し、加えて地域振興・観光誘客を強化する」に合致する。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか）	

○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) △	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度11月に当館学芸員が先方の招聘により台湾へ渡航、調査を行った。しかし新型コロナウイルス感染症の流行により令和2年度に予定していた事業を中止したため、具体的な事業成果はまだあがっていない。 海外博物館学芸員の招へいにより、当館及び当地域を学術的・専門的な観点で国際的にアピールすることができる。
<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> 新北市立鶯歌陶瓷博物館との連携を強化することで協力体制を築き効率性を図っていく。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> 事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>当館が陶芸文化を海外へ発信していくためには、コレクションの充実が必要である。また県の陶磁器産業や当館と類似の陶芸館と連携することが重要である。</p>

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>将来の台湾での当館の展覧会に向けて、令和4年度以降も継続して人的交流を進める必要がある。したがって当館の今後の展開のためにも、本事業は継続・拡大すべき事業である。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	